

平成28年度 第1回ちがさき自転車プラン推進委員会 会議録

議題	(1) 委員長・副委員長の選出について (2) ちがさき自転車プラン推進委員会における議事録の作成及び公表について
日時	平成28年11月16日(水) 15時00分から17時10分
場所	市役所分庁舎5階 特別会議室
出席者氏名	<p>(委員) ※ 計20名 齊藤 進、古倉 宗治、田野 敏明、新谷 雅之、平本 善昭、岡本 雅司、益田 和子、林 申次、山上 著、佐藤 たゑ子、小野江 達人、小俣 晴俊、柏崎 周一、竹中 尊男、福田 三朗、本田 弘巳、三橋 博、露木 輝久、磯嶋 雅彦、田中 元</p> <p>(欠席委員) なし</p> <p>(事務局) 理事兼都市部長 大野木 英夫 都市政策課 課長補佐 山本 卓也 副主査 山崎 哲 主任 宮崎 翔平 主事 飯塚 亜利紗 安全対策課 課長 梅原 正史 課長補佐 大八木 元</p>
会議資料	<p>次第</p> <p>資料1 ちがさき自転車プラン推進委員会規則</p> <p>資料2 委員名簿</p> <p>資料3 茅ヶ崎市審議会等における会議録等の作成に関する指針</p>

	資料４－１ 第２次ちがさき自転車プランとこれまでの取り組みなどについて 資料４－２ シェアサイクル事業の進捗報告について
会議の公開・非公開	公開
非公開の理由	
傍聴者数	２名 ※ その他、随員１名

(会議の概要)

1 開会

2 委員の委嘱について

- 山崎副市長より、20名の各委員に委嘱状を交付。(服部市長は他の公務につき欠席)
- 資料1をもとに、事務局より委員会の設置経緯及び規則について説明。(資料2は参考)

3 議題

(1) 委員長・副委員長の選出について

「ちがさき自転車プラン推進委員会規則」第4条第1項の規定により、委員長に斉藤委員、副委員長に古倉委員が選任された。

(2) ちがさき自転車プラン推進委員会における議事録の作成及び公表について

資料3をもとに、事務局より本委員会における議事録の作成及び公表方法について説明し、承認を得た。

4 報告

(1) 第2次ちがさき自転車プランとこれまでの取り組みなどについて

資料4-1、4-2をもとに、事務局より「第2次ちがさき自転車プラン」の内容及び、これまでの取り組みについて報告。まちづくりの3つの方向性ごとに、意見交換を行った。

また、その他のご意見について、事務局から各委員に照会させていただき、これらの意見等を事務局でまとめ、次回の委員会の際に提出することとなった。

5 その他

- 第10次茅ヶ崎市交通安全計画(素案)のパブリックコメント実施について

6 閉会

○ 山崎副市長

こんにちは、副市長の山崎でございます。本来であれば服部市長がご挨拶させていただくところですが、所要の為市長に代わりましてご挨拶させていただきます。本日はご多忙の中、本委員会に出席、また委員にご快諾いただき本当にありがとうございます。ご承知の通り茅ヶ崎市は古くから地理的要因もあり非常に自転車の需要が多く、古くから地元のミヤタサイクルさんもあり、自転車に親しみやすい自転車のまちであります。自転車は従来より放置自転車、交通事故、盗難等、早急に対応しなければならない負の課題がありますが、本来人に優しく茅ヶ崎市にとっては大事な移動手段です。市民の方々のライフスタイルをみると、やはり健康志向型あるいはスローライフということで、自転車というものが茅ヶ崎市民の方の非常に重要なアイテムになっています。近年国内外でも改めて自転車について環境や高齢者、健康の視点から非常に注目を浴びて、今自転車のまちづくりというものがどこの自治体でも活発になっているところでもあります。本市では自転車が安全に利用できる快適な環境づくりと自転車の利用促進を推進するために「ちがさき自転車プラン」というものを策定しています。このプランも第2次に入っていますが、様々な視点から自転車施策を総合的・体系的に整理して全庁で進めていくということになっています。皆様方にはこの自転車プランの進行管理をお願いするとともに、自転車全般に対して率直なご意見・提案をいただきたいと思っております。本市の道路事情では自転車専用レーンは課題があり困難な状況にありますが、皆様方のお知恵をお借りしてソフト対策も含めて総合的に自転車政策を進めていくことを、民間の皆様と連携をしながら推進していきたいと考えています。今後もみなさんにご不便・ご負担をおかけすることが多いと思いますが、「自転車のまち茅ヶ崎」の実現のため、是非お力をいただき、まちづくりを一つ一つ進めていきたいと思っておりますのでご協力のほどよろしく申し上げます。

○ 事務局

事務局紹介

○ 事務局（山本課長補佐）

本委員会の設置経緯についてご説明いたします。

当会議はこれまで茅ヶ崎自転車プラン推進連絡協議会としまして要綱を設置根拠として開催してきました。その後会議の運営内容を地方自治法に照らし検討した結果、設置根拠を条例に求めていくことが市として適切と判断したというのが今回の変更の趣旨です。

なお、当委員会のみならず市の他部門の会議においても全庁的に同様の趣旨で統一を図ってまいりました。全庁的な調整や法的な精査に時間を要しましたが、本年6月の市議会・定例会にて承認をいただきましたので茅ヶ崎市附属機関設置条例に基づいて設置したの

が当委員会でございます。

<資料1に基づいて、規則について説明>

○ 事務局（山本課長補佐）

引き続き、議題1「委員長・副委員長の選出について」に入っております。規則に従いまして、説明いたします。

事務局より提案ですが、協議会に引き続きまして、委員長を産業能率大学の斉藤委員、副委員長を株式会社三井住友トラスト基礎研究所の古倉委員にお願いさせていただこうと思うのですが、いかがでしょうか。

（異議なし）

ありがとうございます。

<斉藤委員及び古倉委員のプロフィールを紹介>

それでは、斉藤委員長と古倉副委員長、ご就任の挨拶をよろしくお願いいたします。

○ 斉藤委員長

斉藤でございます。委員長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

このプランは第2次に入っています。第2次プランは茅ヶ崎が自転車のまちとして当たり前の生活の中で魅力のあふれるあるまちにしていくという内容が、たくさん盛り込まれています。そういったことを実現していくために、より具体的に実践的に取り組んでいくことを念頭に、活発に議論していただきたいと思います。委員会の規則で、第2次プランの進捗状況を検討・推進したり、必要に応じて市長に建議、答申できるということで、是非みなさんのお知恵をいただきたいと思います。

○ 古倉副委員長

古倉でございます。よろしくお願いいたします。

今年の7月に国交省の道路局から走行空間のガイドラインの改訂版が出ました。全国の幅広い都市で自転車ネットワークをつくることを推進するという内容です。9月には都市局からコミュニティサイクルを含む駐輪場のガイドラインが出ました。いずれにしても時代の変化に対応した自転車の街づくりを進めるという方向性が出ています。それを受けて、

この委員会を推進するという事は非常に時宜を捉えたことであると思います。最近色々なトピックがありますが、全国で放置自転車が一番多かった時期の10分の1以下になってきている。公共交通の自転車を連携させる方向に動きが出てきたり、自転車観光をもっと推進しよう、自転車観光でおもてなし、外からやってくる人に良い駐輪空間・走行空間を提供することが動きとしてあり、それは市民も享受することができます。こういう観点から、自転車観光の動きが全国的に出てきています。沖縄は、全国で最も自転車利用率が低く、自転車保有率も同様に低い県であるが、自転車を推進しようという動きがあります。全国津々浦々で自転車まちづくりが推進されています。茅ヶ崎も負けてはいられないので、前向きに新しい施策も含めて推進していく必要があるのではないかと思います。

○ 事務局（山本課長補佐）

ありがとうございました。それでは、議事の進行を齊藤委員長にお願いいたします。

○ 齊藤委員長

次第に従って進めていきたいのですが、1回目の委員会ですので、委員のみなさまに自己紹介と一言お話しをいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○ 田野委員

田野と申します。大学で観光学を専攻し、観光に携わってきました。茅ヶ崎市と観光がどう結び付くかということに非常に興味を持ち、観光と自転車プランについて意見を述べていきたいと思っています。

○ 新谷委員

茅ヶ崎市観光協会の新谷です。観光協会としては、事業の一環としてシェアサイクル推奨を心がけてきました。これからも皆さんの意見を聞きながら観光振興の一環としてシェアサイクルをどのような形でやっていけるか楽しみにしています。

○ 平本委員

神奈川県地球温暖化推進員の平本です。以前から参加させてもらっていますが、地球温暖化の対策としてCO2を発生させないという点からは自転車が非常に効率的であるということから、自転車利用を推進していきます。そういった分野から参加していきたいと思っています。

○ 岡本委員

公益社団法人茅ヶ崎青年会議所の岡本と申します。2017年に11年ぶりに神奈川県ブロック協議会の主幹ブロックとして開催します。テーマでスローライフを掲げているので微力ながらお手伝いしていきたいと思っております。

○ 益田委員

ちがさき自転車プラン・アクション22代表の益田です。「第2次ちがさき自転車プラン」のP.60に掲載されるプロジェクトに取り組んできました。第1次のプランを行政とともにいかに進めていこうかということで、10年前に組織が設立されました。微力ですが少しずつ色々なところでやってきたことが今に繋がっているので、第2次プランも少しずつでも協力して進めていければと思います。

○ 林委員

茅ヶ崎市まちぢから協議会連絡会の代表でまいりました。南湖中町の自治会長をやっています。国道1号や浜見平の自転車専用レーンなどを体験した程度で、プランについては具体的なことはわからないことが多いですが、できる限り協力させていただきたいと思っております。

○ 山上委員

茅ヶ崎商工会議所の山上です。自転車は色々な面があり、観光や業務での利用に加え商店街・大型店ではお客様に来店いただく非常に有効な手段です。茅ヶ崎市の経済に貢献するような良いものであるということを意識しながら参加していきたいと思っております。

○ 佐藤委員

交通安全協会の佐藤と申します。本来、運転免許証の更新事務をさせていただいております。自動車における交通安全を目的として活動をしてはいますが、第2次自転車プランの4-1に書かれておりますとおり、道路交通法の改正により、歩行者等、自転車、自動車が互いに限られた空間を、思いやりをもって譲り合うというところで関連があるので、参加させていただいております。

○ 小野江委員

茅ヶ崎市青少年育成推進連絡会議の小野江と申します。青少年育成推進連絡会議とは、市内の小中学校ごとにある19の青少年育成推進連絡会議の会長会議の連絡会です。子どもたちの健全な育成のために、自転車も含めて、安心安全なまちづくりという観点で協力

できたらと思います。

○ 小俣委員

公益社団法人茅ヶ崎市シルバー人材センターの小俣と申します。茅ヶ崎市から指定を受け、市の9か所の駐輪場の指定管理業務を行わせていただいております。

○ 柏崎委員

市内の95の老人クラブの連合会の副会長を務めております柏崎です。年をとられても自転車で楽しむ人が増えているということで、楽しく乗るためのマナーに非常に興味をもっています。また、高齢者が歩道を歩いているときに自転車に若干恐怖を抱くことがあるので、自転車の運転マナーについても非常に興味をもっています。

○ 本田委員

茅ヶ崎市大型店連絡協議会の会員でございますイオン茅ヶ崎中央店マーケティング課長の本田と申します。お客様のうち4割の方が自転車でご来店されています。先日のヴェロ・フェスティバルも拝見させていただきましたが、自転車に興味をもっている方、または自転車が趣味の方がたくさんいらっしゃいました。商売をさせていただくうえでどういう品揃えをしていったらいいのか、またどういった働きかけをしたら、自転車を購入していただいたり、自転車でご来店していただけるのか、そのような切り口を勉強させていただけたらと思います。

○ 竹中委員

自転車商協同組合、茅ヶ崎で27店ある自転車組合であり、この委員会に一番関係のある団体の、竹中です。年に1回各高校で自転車の無料点検・整備を行っています。先月は西浜高校で900台を行って、生徒さんに大変喜んでいただきました。いつでも相談にのりますので、よろしく願いいたします。

○ 福田委員

株式会社ミヤタサイクルの福田と申します。自転車の製造販売をしています。前身はミヤタ工業株式会社で昭和39年から事業をおこなっています。自転車メーカーという形でものづくりの視点から関わっていくのはもちろん、様々な自治体とイベントを開催したり、ロードレース・マウンテンバイクチームとイベント関係の取り組みをやっていく中で、自転車のまち茅ヶ崎のまちづくりに微力ながら力になれるようがんばりたいと思いますのでよろしく願いいたします。

○ 三橋委員

茅ヶ崎市商店会連合会の三橋と申します。市内11商店会600店舗が加盟している団体です。昔ながらの自転車の似合うまちとして十数年前からレンタサイクル事業をしていて、商店街を自転車でもわるかたちをとるとともに、お客様とのコミュニケーションのツールとして、今現在もやっています。年間数千台分のレンタサイクルの利用があります。微力ながら貢献したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○ 露木委員

神奈川中央交通の露木と申します。昔だとバスと自転車はバッティングするという、お互いがみ合っていた部分がありましたが、最近だと、都市政策課と協働して、平成16年度から茅ヶ崎市の主要な停留所に、駅まで来なくても最寄りのバス停で自転車を置いてそこからバスへ、というような自転車とバスのコラボレーションという意味あいサイクルアンドバスライドというシステムを構築しています。茅ヶ崎市は一番利用が多く、市内で8か所ほど実施しています。そういったいいことがある一方、ネガティブな話になってしまっていますが、最近当社の中で、自転車のマナーが一部悪いという意見があり、バスの前に飛び出して不幸にもバスに乗車のお客様が転倒してしまった事象もあるので、良い話をしながらも、マナー向上の普及活動の知恵をみなさまから色々と拝借させていただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

○ 磯嶋委員

JR 東日本横浜支社の磯嶋と申します。鉄道事業者としては、駅という点のポテンシャルと東海道本線・相模線というラインとしてのポテンシャルを有しています。こういったものを茅ヶ崎のまちづくりにどう活かしていくかを、この委員会で議論しながら、私どもは多くのお客様を茅ヶ崎市に送客をするという使命を担いつつ、色々と勉強させていただきながら検討していきたいと思っております。

○ 田中委員

茅ヶ崎警察署交通課長の田中と申します。先ほど、茅ヶ崎は自転車のまちとありましたが、茅ヶ崎署管内の人身事故のうち自転車の関係する事故は県内平均を大きく上回っています。日々色々な事故を見ているので、その経験がこの委員会のお役にたてばと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○ 齊藤委員長

ありがとうございました。議題の2に入りますが、その前に、今日の会議に委員20名が全員出席しています。設置要綱の第5条2項の規定により、出席者が過半数を満たしているということで会議が成立していることをみなさんにご報告します。

議題の(2)ちがさき自転車プラン推進委員会における議事録の作成と公表について、この件について議題とさせていただきます。

事務局より説明をお願いします。

○ 事務局 (山本課長補佐)

<資料3に基づいて説明>

○ 齊藤委員長

内容についてご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。

(質疑なし)

特によろしいでしょうか。よろしければ、市が定めた指針に従って今後会議を進めていくということでよいでしょうか。

(異議なし)

それでは異議がないということで、進めさせていただきます。

議事録の署名人ということで審議会の長より指名することになっているので、大変申し訳ありませんが名簿の順にお願いしたいと思います。名簿の1番目の田野委員にお願いしたいのですが、みなさまよろしいでしょうか。それでは田野委員、よろしく申し上げます。

それでは報告事項に入りたいと思います。

報告案件(1)第2次ちがさき自転車プランのこれまでの取り組みについて、事務局より説明をお願いします。

○ 事務局 (飯塚主事)

<資料4-1、4-2に基づいて説明>

○ 齊藤委員長

ただいま、事務局より報告がありました。

第2次ちがさき自転車プランでは、主なまちづくりの方向としては、「おもいやりの人づくり」、「風を感じる空間づくり」、「暮らしを楽しむ仕組みづくり」、この3つの柱を軸に、それぞれの平成28年度事業やこれまでの事業を含めてどんな事業を展開してきたのか。それから、柱ごとの現状認識ということで、これまでやってきた実績と、それをふまえた現状での課題点が整理されています。P12、18、27の体系で説明がありました。

これから自由にご意見をいただきたいのですが、できれば順番に、「おもいやりの人づくり」から始めまして、「風を感じる空間づくり」、最後に「暮らしを楽しむ仕組みづくり」と、柱ごとにそれぞれお気づきの点、質問・ご確認も含めて結構ですので、ご意見をいただければと思います。できれば、今後こういったテーマで進めていくためにどういう取り組みをしていけばいいのか、問題提起、検討のテーマも提示していただければと思います。

その前に全体をとおしてなにかございますか。よろしいでしょうか。

(特になし)

それでは、「おもいやりの人づくり」についてご意見をいただければと思います。

○ 露木委員

私はこの会議に参加させてもらうのは初めてですが、確認させてもらいたいことがあります。交通安全教室を受講されている方が増えているということですが、まず交通安全教室の内容を聞きたいのが1点目です。2点目は、先ほど自己紹介の中で私がお話をした関係もありますが、自転車が起因する事故が減っているものの、実際に当社では自転車の飛び出しが起因している事故で、自転車が逃げてしまう事例があります。急ブレーキによってバスの車内でお客様が転倒したりということがあるので、もし事件事例として交通安全教室の内容に加えていただければ、そういった資料もお出ししたいと思っています。この2点についてお聞かせいただければと思います。

○ 事務局 (梅原課長)

ご質問の交通安全教室ですが、平成27年度においては年間172回開催しました。主には小中学校が多いのですが、保育園・幼稚園・高校も行っています。その他にも一般の方、高齢者の方、養護学校の方も含まれています。内容は歩行訓練、自転車の乗り方教室、

年齢に合わせたビデオ上映やパネルシアターなどを行っています。新たな項目を増やすということですが、必要になってくるかと思えますし、やらせていただければありがたいと思います。このことに関しては個別に相談させていただければと思います。

○ 斉藤委員長

今のバスの前への自転車の飛び出しについて、そういったことを想定した教室のプログラムも検討していただければと思いますのでよろしくお願いします。
その他はいかがでしょうか。

○ 古倉副委員長

3点ほどございます。

1点目は、P. 10の「ステッカー大作戦」は非常に効果のある内容だと思います。大阪の弁天町駅前の放置自転車に対して放置自転車をやめさせようと、小学生にステッカーを作成してもらったところ、68台あった放置自転車が数か月後には9台になり、最終的にはゼロになるという事例がありました。せっかくやっていただくのであれば、子どもたち自身がこれだけやったんだという意欲といいますか、やる気に繋がると思えますので、ステッカーを貼る前と貼った後の一旦停止の状況をデータで比較すると良いと思います。私どものアンケート調査でも効果がありそうということがわかっていますので、今後の課題として検討していただければと思います。

2点目は講習会の内容です。自転車のルールを知らない人へのルールの広報・啓発と、ルールを知っている人に守らせるための広報・啓発は、大分異なります。警察署に運転免許証の更新に来られた方へのアンケート調査では、例えば自転車は左側通行をする義務があるということを知っている人のうち、守っている割合が6割。歩道は歩行者優先で車道寄りを徐行する義務があると知っている人のうち、守っている人が54%という結果が出ています。ルールについての広報・啓発とともに、ルールを知っている人にそれをいかに守らせるかということに重点をおいて考えるべきではないかと思えます。川崎市や立川市のアンケートの事例ですが、ルールを守らないと取締りにあうことや、事故を起こすと高額な損害賠償を払わなければならないなど、自分が損をするということを周知することが効果的ということがわかっています。ルールを守らないといかに損をするかを教育する必要があると思えます。

3点目は、ドライバーに対する愛媛県のポスターの話です。自動車ドライバーは自転車に対して1.5mを思いやりであけましょうというキャンペーンが行われており、いたるところにポスターが貼られています。自転車に優しいドライバーを目指すというものです。事故が徐々に少なくなっているという客観的な事実がありますが、アンケート調査による

と、自転車は後ろから来る車に対して恐怖心があるとのこと。ドライバーに思いやりの気持ちを持ってもらうことを、全市的な運動として取り組んでいただくことが重要だと思います。先日アメリカに行った際もそうでしたが、自動車に対する恐怖心をなくすことが必要ということは、色んなところで一番言われていることなので、是非そういうことを重点的に取り組んでいただければありがたいと思います。

○ 齊藤委員長

ありがとうございます。

事務局の方からお答えをよろしくお願いします。

○ 事務局（山本課長補佐）

それではお答えします。

さまざまなアドバイスを含んでいたと思います。ありがとうございます。

1点目は、自転車事故の相当数が出会い頭の事故であるということでステッカーを貼る事業を進めていますが、今ご提案がありましたとおり、次の展開を視野に入れながら、今後どのように進めていくのかということを考えていかなければならないと思っております。

2点目のルール啓発の方法について、事務局としてもなるほどと考えさせられました。ルールを知っているけれど守られない人へのアプローチとして、今後考慮してまいりたいと思います。

3点目に、自転車から1.5m離れて自動車ドライバーが走行するというお話がありました。

プランの柱の中では、精神性があるのはじめてルールが守れるだろうという考え方が根底にあり、「おもいやりの人づくり」の柱があります。ただ、そういったところのアプローチの仕方が非常に難しいと考えます。このプランの計画期間の4分の1を終えた時点で、やりながら難しさを実感しているところですので、引き続きアドバイスをいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○ 齊藤委員長

ありがとうございました。その他いかがでしょうか。

○ 田中委員

「おもいやりの人づくり」の関係で、ルールを守らないという話が出ました。警察署でいろいろな話を扱っていて思うことがあります。自転車はやはり子どもについて扱うこと

が多いため、安全教育は子どもが中心となることが多いです。ルールを守らなかったお子さんや、事故を起こしたお子さんに話を聞くと、大抵のお子さんはルールを知っています。社会的にも問題になっており学校でも色々とやっていますが、「どうしてルールを守らないの？」と子どもに聞くと、「大人が守ってないじゃん」、という意見ばかりです。親が守っていない、大人が守っていない。つい先日、警察署の前に交通整理のために署員が立っていました。歩行者用信号が赤になったところを歩道を通っていた自転車に乗る女性が渡ろうとしたので、「止まってください」と言ったのに、その女性はそのまま通過をしました。その後ろにいた小学生が「お巡りさん、大人があんなで良いの？」と言った、という話がありました。今後は、親世代等に対して、子どもの見本となるよう伝えていかなければいけないのかなと思います。そこでお願いが2点あります。

1点目は、安全教育についてです。小学校と中学校はもちろん、企業等でも、警察も一緒に実施していますが、今気になっているのは高齢者の方です。高齢者は自転車に乗りまですし、また横浜の方では高齢者が乗る自動車が児童の列に突っ込んだという事故もあります。高齢者に対する安全教育の機会が少ないのかなと思います。本日は老人クラブ連合会の方などがいらっしゃいますが、少人数でも良いので、何かの集まりの1コマなどの短時間で良いので、是非ご連絡いただければと思います。

高齢者つながりで、P. 11に「シルバーセーフティドライビングスクール」の記載があります。高齢者の方の事故というと被害に遭っているというイメージがありますが、茅ヶ崎署管内では約6割が事故を起こしている方、加害者の立場です。その結果、自転車の方が被害に遭うということももちろんあります。この「シルバーセーフティドライビングスクール」ですが、だんだん参加者が減ってきているという話がありますので、もう少し活性化できる案はないかと思っています。

最後に提案があります。自転車は便利なので使いましょう、という前段階として、自転車事故があちこちで起きていたら誰も自転車に乗らなくなります。ルールを守ろうといっても、ルールを守っていても、どうがんばっても事故は起きてしまいます。もし事故が起きた時、その被害の軽減策としてヘルメットがあります。もちろん13歳以下はヘルメット着用が義務ですが、特に子どものヘルメットについて何とかしたいと思っています。具体的には、ヘルメットを購入する際に何%か補助を出すとか、それが不可能であれば、子どもはどんどん成長して頭の大きさが変わってくるので、小さくなったヘルメットを回収する、もしくは割引券と交換するということをして、回収したヘルメットをルール講習会や安全教育の時に配るというような策があればと思いますので、検討していただきたいと思っています。

○ 齊藤委員長

ありがとうございました。安全な走行のためにいかにルールを守らせるか、大人の問題や高齢者の問題についてお話しいただき、ご提案もしていただきました。是非、重点的に対策を検討していただければと思います。事務局の方で何かコメントがありましたらお願いします。

○ 事務局（山本課長補佐）

提案を含めまして、ご意見ありがとうございます。

高齢者の視点、我々としても非常に必要だという認識です。委員のみなさんの考え方があると思いますが、この推進委員会の性質として、老人クラブ連合会の柏崎様や、関係者の方々に集まっていたいただき、それぞれの持ち味のあるものを出し合うというのが、この会の意義でもあるので、是非この机上にあげていただき議論が進むとよいという思いもあります。また、ご提案いただいたヘルメットの件ですが、なるほどと思いました。事故が起きてしまったとしても、被害を少なくするという視点はやはり重要だと思いますし、まずヘルメットがなければということもあります。安全利用五則の中の保護者の責任の範囲ではありますが、基本的な各家庭の条件を整えることが必要であり、今あるリソースでどれだけできるのかを考えていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

○ 齊藤委員長

具体的な提案がありましたので、是非そういった点を重点的な取り組みを進めていただければと思います。その他ありますか。

○ 益田委員

おもいやりの部分ですが、主な取り組みとして、安全教育の取り組みを推進しています。幼稚園、保育園の子どもたちは自分で自転車に乗るということはないのですが、保護者の方の自転車の前後に乗ります。家庭教育の中の支援などの領域にどのように働きかけていくかということで、昨年度、幼稚園・保育園で子どもから家庭に KEEP LEFT、交通ルールを守ってもらおうということ、働きかけるということをやらせていただきました。KEEP LEFT のプレートを子供たちがつくって、親の自転車に付けてもらって、ルールを守って運転してね、というような啓発活動だったと思います。今年度はしていませんが、効果的なものだと思うので、今後もそういう取り組みができればいいと思います。また、新規のところ、自動車ドライバーへの自転車走行レーンにかかわる啓発活動で、アクション22では、茅ヶ崎は自転車が多いので茅ヶ崎に入ったらゆっくり走行しようという気持ちになってもらおうと、ゾーン30という考え方を研究してきました。警察の方に伺ったのです

が、今年度中に指定区域が3か所できるということで、これは県内でも一度に3か所できるのはとても珍しいということでした。そういう部分をこの場で少しご説明いただければと思います。自動車もゆっくり走ろうというような考えが、少しずつ進んでいることを、この場をお借りしてお知らせしたいと思います。

○ 齊藤委員長

ありがとうございました。市民団体の方も熱心に取り組んでいるということですが、今の関連で、田中委員、簡単にご説明をお願いできますか。

○ 田中委員

ゾーン30というのは、ある一定のエリアを時速30km制限にしましょうというものです。現在まで茅ヶ崎署管内にはありませんでしたが、ずっと本部とも協議していて、3か所、藤沢境の辻堂駅の西側で1か所、国道134号の浜須賀の北側で2か所、決定しました。概ね工事は今年度中に終わる予定ですが、路面標示や標識がありますので若干前後するかもしれません。そうなれば、取締り等できますので、より交通安全につながるのではないかと思います。

○ 齊藤委員長

ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

○ 福田委員

今お話を聞いていて思ったのが、自転車に関する事故で当然被害者の方いらっしゃるということで、サイクル保険があります。自治体の中には義務化しているところもあります。茅ヶ崎市内においては高額な賠償請求をされた事故は起きていないと思うのですが、いつ市内でも起こるかわからない状況の中で、小さなお子さんからお年寄りまで非常に多くの方が自転車を利用されているという中で、いつどなたが加害者になるかわからないと思います。先ほど警察の方からお話しがあつたとおり、自分が守っても他の方が守らなくて事故に遭うということもあると思いますので、サイクル保険の推奨も、取り入れていったらいかがだと思います。

○ 竹中委員

今おっしゃられた保険ですが、TSマークというのがあります。市役所で使われている自転車にはほとんどついてます。これは最高5000万円の賠償金がついた保険になります。われわれのお客様の中でも保険に入りたいという方は増えています。

○ 齊藤委員長

ありがとうございます。

○ 事務局（梅原課長）

サイクル保険の話がありましたが、確かに最近自転車事故の高額賠償の話がでているところです。今のところ、先ほどの竹中委員のお話にありましたように、TSマークに注視してやっていければと思いますが、ご意見を参考にしながら検討したいと思います。

○ 齊藤委員長

ありがとうございます。その他よろしいでしょうか。

○ 田野委員

私が知っている事例ですと、駐輪場を何か所も持っているまちにおいては、ある駐輪場で借りたレンタルの自転車を、よその駐輪場で返せるといったものがあります。この場合、江ノ島や鎌倉に行く場合、他市などの駐輪場と提携しないとできません。人的、場所的な問題はあると思いますが、実際に行われているまちがあるということをご紹介させていただきました。

○ 齊藤委員長

レンタサイクルの事例をお話しいただきありがとうございます。

本日は5時前後の終了を予定していますので、時間が少なくなってまいりましたので、「風を感じる空間づくり」と「暮らしを楽しむ仕組みづくり」の柱について、両方併せてご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

○ 山上委員

自転車専用レーンの関係で質問です。平成25年の自転車利用に関するアンケートで、遠回りをして安全な道を通りたいという意見の方が半数いらっしゃいましたが、これだけいろいろと走行空間が整備されている中で、自転車専用レーンでの自転車の走行数が増えているのか減っているのかというデータがあれば、確かにそういう道が選ばれ、お買い物や目的地に行くといった効果がわかるのではないかと思います。いかがでしょうか。

○ 事務局（山本課長補佐）

国道1号線を例に挙げますと、自転車専用レーンの走行率が、整備前の3年前の3月と

整備後から約半年後の10月を比較したデータがあります。走行率として整備前38.7%に対して整備後58.5%という状況がありまして、データ上だけでなく、見た印象としてだいぶ利用が進んできているのかなという印象は実感として感じられます。

○ 齊藤委員長

ありがとうございました。できれば、効果が出てきているということや、実態として遠回りしても安全な道を選ぶというような、自転車専用レーンの有効性の検証を今後検討していただけるとよりよろしいと思います。

その他いかがでしょうか。

○ 益田委員

風を感じる空間づくり、法定外路面標示など、行政は予算取りが大変だと思いますが、今後も進めてほしいですし、もちろん検討もされていると思います。アクション22では、市民の方や高校生と一緒に自転車で走ったりしています。自治会の人たちと一緒に国道1号を走ったことがあります。私も含めて、今まで歩道を走っていたのでなかなか怖くて自転車走行レーンを走れないということがありました。きっと安全だけれど、抵抗を感じている高齢者がいらっしゃると思います。トラックなどは、「こんな所走るな」みたいな感じでわざと寄ってくると感じたりもしましたが、実際はとても走りやすいので、まちぢから協議会などの協力を得ながら、法定外路面標示や自転車専用レーンを、色々な人たちと実際に走行するという事は良いことだと思います。

○ 齊藤委員長

整備した後にどの様に使われているかをいろいろな世代と交流しながら実際に検証してみるということは重要かもしれません。ありがとうございました。

全体を通してその他ありませんでしょうか。気が付いたことがあればお願いします。

○ 竹中委員

自転車専用レーンを走っている時に自転車の前にトラック等が止まっていると危ないのでどうしても歩道に入ってしまう。歩道へ入るときの段差で怪我をしたという人もいます。この段差を何とかできないかと考えています。

○ 齊藤委員長

傾斜を削るとするのはなかなか難しいと思いますが、国道1号等で自転車専用レーンが整備されつつありますが、そういった実際に利用したうえでの課題も出てきていますね。

○ 古倉副委員長

走行空間でご意見がありました。他の地区では自動車側と自転車側と住民側の3方向からのアンケートを実施し評判をみているところがあります。自転車走行レーンに関しては、むしろ自動車側の方が良かった方が良かったか、今後も続けてほしいといった肯定的な意見が自転車側の方より多く、自動車側は8割以上、自転車側は7割くらいとなっています。自転車の方が意外と安心して走れたなどの評判が高いので、アンケート調査のデータ結果をちゃんと示すと、自転車専用レーンに入るのが比較的怖いと思っている人が利用しただけのようになると思います。それからシェアサイクル事業ですが、これから自転車観光に結び付けていくのはすごく重要なポイントになって来ると思います。ただ使いたい方はどうぞお使いください、使わない方は結構ですではなく、使っていただくということを前面に押し出していく必要があるのではないのでしょうか。使い方と言えば例えば、今回のスーパームーンを自転車を利用して浜辺へ行って観てみるとか、時間、季節、場所等のシーン、恋人と来るとか家族と来るとかに合わせて、セットで使い方を提案していくというのが重要なポイントだと思います。あと、乗り捨てについては奈良県でやってみましたが、利用者100人のうち乗り捨てをしたのは5～8人くらいでした。乗り捨てをやろうとするともものすごい手間と費用がかかるので、確かにご要望はあるかもしれませんが、まずは利用を伸ばすということを重点的に考えた方が良いのではないかと思います。

○ 齊藤委員長

ありがとうございました。先ほど田野委員の方からも、自転車の乗り捨てや、観光面での活用も必要だという話が出ました。シェアサイクルは、試行、そしてそれを更に拡大しようということで進めています。古倉副委員長からご意見をいただいたように、いかに楽しく利用していただくかということを中心にPRしていくことが重要であると思います。それから、アンケートなどの結果を広くお知らせし、自転車走行の安全面、利用面がどのように変わっていったか、どのように良くなっているかを知ってもらうことが重要だと思いました。

その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

本日は時間がなかったので、そこで私からのお願いなのですが、今日は時間がなくて意見が出せなかったけれど、資料の詳細を見ていたらこのところをこういう風に考えたい、この課題はもう少しこういう風に取り組んだ方がいいのではないかと、などのご意見を皆様からいただきたいと思いますので、事務局からご連絡をお願いしてもよいでしょうか。

それでは議論は締めさせていただきます。その他事務局から報告事項があればお願いしま

す。

○ 事務局（梅原課長）

現在、市では、第10次交通安全計画を作成中で、素案のパブリックコメントに関して12月下旬から1か月ほど行います。広報紙やホームページで周知させていただきますのでよろしくお願いいたします。

○ 事務局（山本課長補佐）

事務手続きについてのお知らせです。

報酬に関する書類などをまだご提出されていない方におかれましては、事務局までお知らせください。

また、次回のちがさき自転車プラン推進委員会は3月頃を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

○ 斉藤委員長

本日はみなさまから活発なご意見、課題、提案をたくさんいただきました。次回もこのようなかたちで進めていきたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。